

WEEKLY SIGNAL

平成30年7月13日(金) 1432号

上田八木短資株式会社

来週の市場とレート予想

	7/16(月)	7/17(火)	7/18(水)	7/19(木)	7/20(金)
無担保O/N			△0.086%	～ 0.001%	
銀行券		+ 800	+ 1,000	ト ン	ト ン
財政他		+ 4,700	+ 2,000	△ 5,000	△ 7,000
資金需給		+ 5,500	+ 3,000	△ 5,000	△ 7,000
主な要因		国債償還(2Y) 国庫短期証券 発行・償還(3M)		国債償還(2Y) 国庫短期証券 発行・償還(1Y)	国債償還(変動15年) 交付税特会借入・償還
オペ期日	祝日	共通担保 △ 2,400 CP等買入 △ 700 社債等買入 △ 100 国債補完供給 + 300			被災地支援 △ 1,100
オペスタート		共通担保 + 2,900 ETF買入 + 600 国債買入 + 6,900	CP等買入 + 2,000		被災地支援 + 1,100
(日本)				貿易統計(6月)	全国CPI(6月)
(海外)	米露首脳会談(ヘルシンキ) EU・中国首脳会談 (北京、17日まで) IMF、世界経済見通し(WEO) 改定版を公表 米 小売売上高(6月) 米 企業在庫(5月)	米 FRB議長、上院議会証言 米 鉱工業生産(6月) 米 NAHB住宅市場指数(7月)	米 FRB議長、下院議会証言 米 ベージュブック 米 住宅着工件数(6月) ユーロ圏CPI(6月、改定値)	米 クォールズFRB副議長、講演 米 新規失業保険申請件数 (14日終了週) 米 景気先行指標総合指数(6月)	米 セントルイス連銀総裁、講演

【インターバンク市場】

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	△0.060 ~ 0.030
SPOT 2M	△0.050 ~ 0.040
SPOT 3M	△0.010 ~ 0.050
SPOT 6M	△0.010 ~ 0.100

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初388兆4,300億円から始まり、国債発行や税・保険揚げ等の財政等要因を受けて、385兆3,100億円まで減少して越週した。
無担保コールON物加重平均金利は、週初△0.071%から始まった。その後、地銀業態を中心に基礎残高・マクロ加算残高の調整を目的とした調達ニーズの高まりから、同金利は徐々に上昇し、12日には△0.064%となった。6月積み期最終日かつ4日積みとなる13日は調達圧力が弱まり、△0.065%に低下した。ターム物は1~2W物を中心に、△0.065%~△0.045%で取引された。
9日、日銀は7月の地域経済報告(さくらレポート)で、全地域の景気情勢判断を前回(2018年、4月)から据え置いた。
来週の主な予定は、6月の全国CPI(20日)、海外ではFRB議長による半期に一度の議会証言(17日上院、18日下院)、ベージュブック(18日)、FRB副議長講演(19日)などがある。

【オープン市場】

CP3M(a-1+)	△0.010 ~ 0.000
TDB 3M	△0.170 ~ △0.130
現先(on/1w)	△0.050 ~ 0.000

<C P>

今週の入れ発行総額は約1兆2,700億円で、週間償還総額の約4,500億円から大幅に増加した。発行市場は、商社・その他金融・石油業態等から大型案件が実行され、活況となった。週末の発行市場残高は、前週より約5,000億円増加し18兆円弱となった。発行レートは、投資家の運用ニーズが強く、概ねマイナス~0%近辺の出合いであった。12日に、CP等買入オペが2,000億円で実施され、按分レートは横這いの△0.003%、平均レートは前回(0.000%)より若干低下し△0.001%であった。
来週の償還総額は、4,500億円程度となっている。5・10日発行が見込まれるため、先週に引き続き発行増が予想される。発行レートは、ディーラーや投資家の運用ニーズが強く、変わらずマイナス~0%近辺の出合いであろう。

<TDB>

9日に行われた6M769回債は、最高落札レート△0.1367%(前回債△0.1262%)、平均落札レート△0.1407%(同△0.1282%)と前回債より堅調な結果。13日に行われた3M770回債も最高落札レート△0.1398%(前回債△0.1328%)、平均落札レート△0.1455%(同△0.1380%)と前回債からマイナス幅をやや拡大した。セカンダリー市場では、新発3M、6M共に△0.15%の出合。一定の需要が見られ、入札水準よりレートは低下した。来週は19日に1Y、20日に3Mの入札が予定されている。

<レポ>

銘柄先決めGCは週前半△0.085%~△0.095%で推移。週後半にかけては小幅低下となり、△0.095%~△0.10%が出合いの中心となった。
SC取引では、10年350回債のbidが先週に続いて多く見られ、週初△0.10%台前半~半ば。11日の国債買入れオペ以降は△0.10%台後半~△0.20%近辺の出合いが見られた。5年135回債は週初△0.10%台後半~△0.20%台半ば。以降週末まで概ね△0.10%台半ばで取引された。その他2年386・387・388・389・390回債、5年133・134・136回債、10年338・339・340・341・342・343・344・345・346・347・348・349・351回債、20年162・163・164・165回債、30年57・58・59回債、40年9・10・11回債などに引合いが多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。